

# HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

## 目次

<b>Preface 巻頭言</b>	
「プレゼンス向上のために」.....丸山 博文	1
<b>Greetings ご挨拶</b>	
「就任のご挨拶」.....藤田 直人	2
「就任のご挨拶」.....藤原祐一郎	2
「就任のご挨拶」.....岡本 渉	3
<b>Topics 霞キャンパスニュース</b>	
「令和5年 防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました .....久保 達彦	3
<b>My Motto 座右の銘</b>	
「夢みて行い、考えて祈る」.....今泉 和則	4
「素直であれ」.....服部 登	4
<b>Excellent Paper すぐれた論文</b>	
「LRP12のCGGリピート伸長は筋萎縮性側索硬化症の原因となる」 .....川上 秀史・久米 広大	5
<b>Research Frontline 研究最前線</b>	
「精神疾患・発達障害の病態分子基盤の解明と次世代創薬を目指して」 .....吾郷由希夫	6
「インドでの抗菌薬耐性に関する研究 ~やはり日本とは違います~」 .....黒田 照夫	7
<b>Air Mail 広大から海外へ留学している若手からの便り</b>	
「ロンドン大学留学便り」.....齋藤 怜	8
<b>編集後記</b> .....吉永 信治	8

## プレゼンス向上のために

大学院医系科学研究科長 丸山 博文



月刊「東京人」の「広島大学」特集号をご覧になったでしょうか？全ページにわたり広島大学のことが記載され、9月増刊号として販売されています。霞地区に関しては、キャンパス紹介のほか、脳・こころ・感性科学研究センター、創薬ベンチャー（株）PURMX Therapeutics、医学資料館所蔵の身幹儀（星野木骨）などが取り上げられました。冒頭で越智学長は「広島大学はトップレベルの研究および教育、社会貢献に取り組んでいる大学

でありながら、（中略）全国ではその実力に見合った評価を得られているとは言えない。」と述べています。医系科学研究科においても優れた研究成果が得られていますが、その発信力という意味では十分ではないと認識しています。まずは、各研究室で論文を発表する際に、より広く内容を発信していただき、特にQ1論文（その分野でベスト25%以内にランクされるジャーナルに掲載された論文）に該当する場合は、プレスリリースなどで積極的にアピールしていただきたいと思っています。

学内での情報共有の一環として、研究力強化専門委員会では広大霞LabSecretaryの運用改善に努め、隔月で構成員の皆さんに広大霞LabSecretary NEWSをメール配信しています。加えてこの6月から霞ヴィオラダイニングのメニュー横にデジタルサイネージを設置しました。すでにご覧になっている方もいらっしゃると思いますが、まだの方は一度ご覧ください。現在はプレスリリースされた研究成果や、講演会の案内などを掲示しています。デジタルサイネージに掲載する原稿を募集していますので、ご希望の方はご連絡ください。霞全体の取り組みとして「霞キャンパスの将来構想」が2016年以來7年ぶりに改定されました。また、霞地区共用研究機器検討WGで機器のニーズについて情報共有していただいていたおかげで、令和5年度学長裁量経費の募集に際して的確に応募することが可能となり、「小動物用広領域・超高分解能マイクロCT」が導入（部局負担あり）されることになりました。関係者のご尽力に感謝申し上げますと共に、今後の意見集約にも引き続きご協力ください。

来年は広島大学創立75周年ですが、すでにG7広島サミットレガシーイベントとしてもその記念事業が開始されています。霞キャンパスでは4月16日に「核兵器の廃絶に向けて一放射線災害への備え」が、5月28日には「認知症を考える～共生社会とイノベーションを日本から～」（主催：日本医療政策機構／協力：広島大学）が開催されました。ご参加・ご視聴いただいた方にお礼を申し上げます。加えて11月11日には、霞部局合同ホームカミングデーのイベントとして、カドヘリンを発見された理化学研究所 名誉研究員の竹市 雅俊先生をお招きし、特別講演を開催しました。多数の皆様のご参加、誠にありがとうございました。

研究を発展させることはもちろんのことですが、実力に見合った評価を得るためにも、皆様の積極的な広報活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

